

引き続き、常勤医師の確保に努めるとともに、経営改善に職員一丸となって取り組み、地域住民はもとより、二次医療圏域の期待と信頼に答える努力を続けてまいります。

熊石国保病院は、医師2名体制により安定経営がなされておりありますが、老朽化が著しく、改築が必要な状況となっております。高齢化が進む熊石地域にとって大切な存在であるほか、近隣地域からも信頼される医療機関となっております。今後においても地域医療の充実に向けてまいります。

平成30年は、西日本豪雨災害や胆振東部地震の発生など、自然災害の多い年でもありました。町民が安心して暮らせる地域づくりの構築が大変重要であり、特に地域コミュニティの形成に向けた共助の大切さを再認識したところでございます。

町政の多くの課題と多様化する町民要望に応じていくためには、多くの困難があると思いますが、町民と議会、行政が互いに知恵と力を合わせ、課題解決に向かって進むことが何よりも重要でございます。

将来にわたって持続可能な八雲町実現のため、議員ならびに町民皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

以下、第2期八雲町総合計画の基本目標ごとに、基本的な考え方と具体的な方針を申し上げます。

1. 八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備

(1) 土地利用の推進

今後の急速な人口減少・少子高齢化への対策として、持続可能でコンパクトな市街地形成を図るため、平成30年度策定した立地適正化計画の具現化に向け、国の誘導施策を基本に土地利用の推進を進めてまいります。

また、平成42年度(2030年度)北海道新幹線開通に向け、新八雲(仮称)駅周辺整備計画と整合性を図り、無秩序な開発を防ぐために都市計画区域の拡大を検討し、来年度に見直される北海道マスタープランに合わせ作業を進めてまいります。

役場本庁舎は、昭和36年に建設され築58年が経過し、老朽化が進んでいると同時に、災害対策活動の中枢拠点に必要とされる耐震性能を満たしていないことから、来年度に機能移転する予定の国立病院機構八雲病院および北海道八雲養護学校の跡地・跡施設の活用を念頭に置きながら、庁舎等整備基本構想・基本計画の策定に取り組んでまいります。

(2) 自然環境の保全

豊かな自然資源に恵まれたまちとして、環境保護、公害防止、地球温暖化対策への取り組みに、引き続き努めるとともに、「八雲町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」に基づいた進捗管理を適切に行い、温室効果ガスの排出量の削減や、省エネ・省資源の取り組みを推進してまいります。

ヒグマやエゾシカなどの有害鳥獣対策については、引き続き、関係機関・団体・住民組織の理解を得ながら、猟友会の協力のもと総合的かつ安全性を重視した対策を実施していくとともに、ハンター後継者の育成に対する支援を実施してまいります。

(3) 市街地及び集落の環境整備

道路の整備であります、3・4・2出雲通街路整備事業は、平成30年度に第二期工事の認可を受け事業着手となりましたので、早期完成に向けて引き続き予算確保を要請してまいります。

町営住宅の整備・改修については、公営住宅等長寿命化計画に基づいて、平成31年度は出雲町C団地3棟10戸の建替建設を行ってまいります。また、平成33年度(2021年度)以降の公営住宅等長寿命化計画見直し作業にも着手してまいります。

空家等対策については、危険な建物と判断された特定空家の解体・撤去費の補助制度や、子育て世帯が空家を取得してリフォームする場合の補助制度を、積極的に活用されるよう制度の周知を図ってまいります。

航空自衛隊八雲分屯基地は、地域の安全・安心の確保に重要な役割を果たしているとともに、町の振興や町民生活と密接な関係にあり、地域経済への波及も大きなものがあります。八雲分屯基地の有効活

用、現部隊の維持と新たな部隊の配置などを目指すとともに、防衛施設周辺整備事業の拡充等についても、引き続き関係協力団体と連携を図りながら要請活動を実施してまいります。

(4) 道路網の整備

国道229号等の海岸沿いの対策では、計画的に高波・越波防止事業が進められておりますが、引き続き早急な整備を図るよう、関係機関に要望活動を行ってまいります。

国道5号および277号、各道道の改良整備促進等について、引き続き関係機関への要望を続けてまいります。特に、北海道新幹線開通による新八雲(仮称)駅へのアクセス道路となる道道八雲北松山線の整備について、北海道への要望および協議を進めてまいります。

町道については、経年劣化による舗装の損傷が進んでいる路線については、今後も計画的に道路改良を実施してまいります。